能相狂言記　上

へ 7
4390
1

へ7
4390
1-2
門 へ 7
4390
1

狂言記目録上

一　ゑ刈とり　三人
（大名　藤六　下六）　[illegible]
二　すゑひろがり　二人
（すつぱ　果報者）　[illegible]
三　七さいおち　一人
男　[illegible]
四　さいはらひのみそ　三人
（僧　菓屋　聟以）　[illegible]
五　ぶんざう　二人
（とのゝ　金藤）　[illegible]

上下

大正十五年三月廿日寄
奈良生順氏贈

六　太刀ばい　三人

大名　すおう長ばかまちいさ刀
くわじや　まえかま
男　まへに太刀をおひあふぎをさす

狂言画上

一　名のり

▲大名　かくれもない大名なりろくおりまする　▲冠者　おまへ
▲大名　下六い　▲冠者　あん人まいりますおりまする　▲大名
福ん（御）ふちやうつらなんぢくよひあにべつらござって
るいは日は正月元日出仕にわかくふとおりふかずふ
とおしふぞ　▲冠者　御もとに用意はさりまし
てそのりうを御礼にわがしりやまいりませぞでな
まねるまで御ざりまするにあがられうちやれて
いかうりはさつろもすせう　▲大名　ようちら宗　▲冠者　さ

▲大名 参いしてそれがしが思ひしがちがけてあけすが
ぞのほとゝ扨てわらふぞ ▲下六 あてろへまうして
しは申ぬらりと参りて御ざりまする ▲大名 一段うい
参りじやいそいでとりてまいれ ▲下六 かしこ
まつて御ざりまする ▲大名 いそげ〳〵 ▲下六
さらは ▲大名 りじく〳〵 ▲下六 いやすこしは茶をまいら
もちませぬ ▲大名 ゆふべんのさかせまするひとつまいらず
や ▲下六 さらは ▲大名 いそげ参い蔵六思ひいやまづか
早に参りつぶして思ひしことおじくい大和一ぞ
ゆかつけぬその茶いよねとりかねにとえてこ

りのでわしらぞ ▲蔵六 そうるにて御ざりまする
りう覆指は志ゆりしなじく御さらかけて相参
くにゆるふとぞんじて それがしかとの御い
参らうとぞんじて わなまする ▲大名 みれしや
りめとおまゝ一段うい参つやいらひきのいぬ
志やけがかしにいそいでぞてゆへ ▲蔵六 うしこま
りてはざら ▲大名 さあわくゆへ ▲蔵六 くゞり ▲大名 参い
そこがぬりぞそれがしとおらやくちやくとしわら
ら ▲蔵六 いやそのおるで御ざりまするけ前の中
ひあん石（せき）御ざりまするすでおまへのおつぢりへ

つけ口をばよまれ申せぬ ▲大名 ふんしかんべござる
くざつてめかし ▲冠者 さらば ▲大名 扨はかうけんかせぢふ
ひまれ ▲冠者 たゞあいやらしとしまかれてはぢりまする
給 ▲大名 扨はいたゞくおふとわしたのもしりつきいた
うちこ物をくわしくよみて ▲冠者 まいげゞまれ白小袖を
めしませう ▲大名 そうして又中まい ▲冠者 紅梅（こうばい）がゝう
はぢりませう ▲大名 うへまへ ▲冠者 のしめをめされ
そやまてつぶしやうはぢりませう ▲大名 さらばよきまい
ちへうでまうろぢさつわりくゆへく ▲冠者 さる
ゆひましてはざる ▲大名 さてくもぢい ▲冠者 いや

すゞひくひとおくびつけとや物をつけまする
▲大名 さわくいそひそくつけい ▲冠者 たれ ▲大名 扨は
そこな屋はおぜまわのまつぶひさいつくこさそは
けわるぞ ▲冠者 いやらまさくおけまいづさつませぬ
▲大名 つゝまていつかしあらりとをえとさりけわれ ▲冠者
ちうじやうはぢりまする ▲大名 そつくぢらまいぢやや
ゐかしがおそふくられ ▲冠者 されバおそふはざ
あまりまする ▲大名 いそいそくおのまいぴむくひまゆ
け ▲冠者 わしこまひではぢりまする ▲下云 ゐいと
のくまちらつ口ごりそやまうずりゐかしぞり

てぱそいけゞぽいろ▲藪六　かふ下六どのくすまち
ぼみ風がぱちいでおねておまゐやせ▲下六　さうでお
らふとおりふてさいのよくそれわしかでくまで
やしめかざりや門松がかゝりさうが今はしめかざり
てだのかゞおやじやとまうすせてさ▲藪六　すこしはそ
ぢうしもすゝはきつぶてあちられておかまやかる
藪稲ぱさりますらのふちでもおつま風ら
ぬすいの▲下六　わくそれわしがおぼえしまちらでおら
風ろどのさ風ぱさりますらがすゝりちらでもおかる
風しぬいなかふとえてさ掘でおらやらふぞ▲藪六　それ

しがおりひつけたいたのかぶ人の図と名をとりて
ちやしるそでこりおまふに▲下六　おのよふぢよしに
ぞかうりおまやらふぞおそくなにといふてさんや
さうの▲藪六　わとらふてだちやそうだあの小唄
人おそうどくの浄内の藪六と下六しあわりし衣
まにまいりておうのやとやまきれてくおやし
ふゑとしていく▲下六　わくさかが一段でおまやらふぞ
さわくいふて見さうしませ▲藪六　さらてろへおらや
御▲下六藪六上　ちおの国人経人おそうどんのみう
ちの下六と藪六が思がおりまのりてだちや

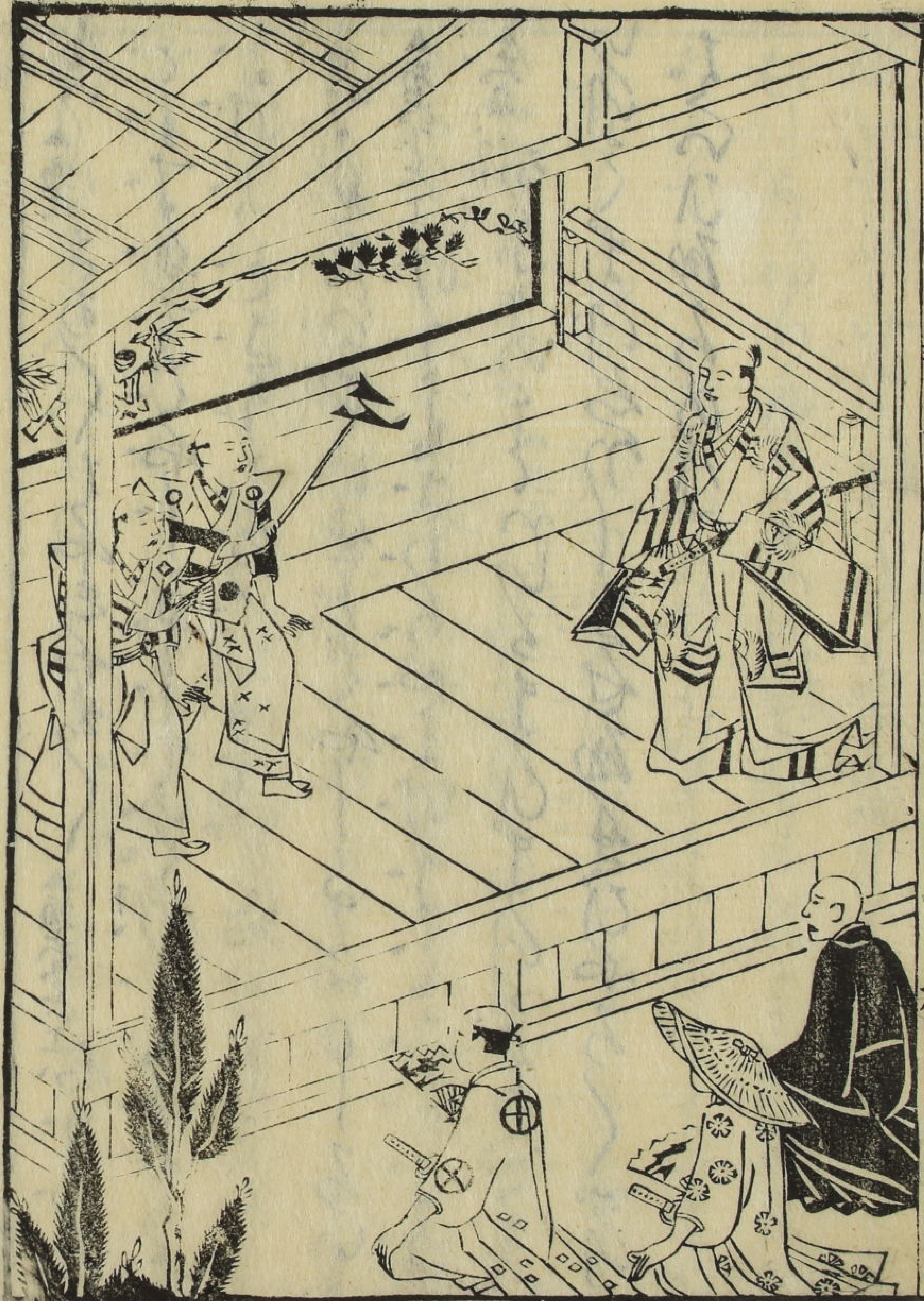
ねとしていく ▲三下 おもふと庭しきでいおしらさ、
ひらひら庭るまいの ▲上六 それりしがわりとひつけたい
わとぞげりまもさわりやよげりまもさうよのとい
ふうしぴやう わりやろの ▲本六 さわくぴていく
りんさうしま坊 ▲本六下六上 経流れの住人ばおそうらん
のみ内の下六と本六と思がしわりのすのかへさや
にしねどしていくげりまもさわりやよげりまきう
よのく ▲大名右 いやにやいやにあんちしちうのはと
どまずけてちやしねどするそもぜんあいのく、
せりの筋が景へいりのふすひ ▲下六 ちわ景でわりや

御い ▲本六 さわくぴちやちやきく ▲本六下六上 たつうの庭
いとまずきでぴちやしるすしていくげりまもさわりや
いいげよをさうよのく ▲大名右 いやにやいやにあんちう
まずきたのみけきどぴちやしるすがわりしろい
▲本六下六上 げりまもさわりやよげりまもさうよの
▲大名右 あふうのとといしろすひぴすりてちへござ
いりくぴすげ忍がしさせ庭きぴやろくぴり
あいい庭ろのぴ

二　さてもしうくこ

▲すうらりおくるへ山城（やましろ）の国ちらしりきらまでれぶう又今日もきやうだいはぱずのうふしてぞんなぞらぞせ高人（おくらうど）いはゞおしとうらり孝をとけりしよわきないがおくねとやがてまかり出惑りしくしのぞらりぱまかせうちりつきさん▲きて我屋くるゝ和泉（いつみ）の国乃郡（こほり）うるほではさうるやうるもわきさがいよまつてふとぞんぞ御局をさそて一隠れひうりまてあそびせさうるすうおまけりもせうぞてこん▲ちらしかくさん

▲すきん▲屋いぞそこれ抱ぞとれそろへより



てあふとづきんくといふぞ▲（さて）座いそこなかの
かめしいなかよいどんしいせまろくといふぞ
▲（しんさく）座そちがなかるそいつこともしよかの
まうしてつらなど母いうけいづのわる物
たや▲（こ）なふといふぞぞるしさてまつげめい
づがわるといふか▲（しんさく）中くまちりとぞて
ぞうねちやあの▲（しんさく）いやまりずいふてさ
るせうぞうしさてつうてでうみといふ中なぞの
よまりかこなしよはいうりけいづのわりいめ
しやぶぞうちがてすかとにはいつくるさまのい

▲（さて）いやさてはてそなのづが物ちやさ▲（しんさく）かんちや
座さて母をけいさてがふてといふか▲（さて）中く物ぢや
御▲（しんさく）座ちりとまつりて物ちがや御乃
▲（さて）御中く様そてまうありがたそてくぬり
まけつかぞう勿やうりこれあるゝ▲（しんさく）
わんでないすぢらしなりまゝりすりはか
つまて▲（さて）さつかへまいてぞうせすも也
まつこ天下の御時よりて人の酔ひ様ふ中どうり
まうろぞ時まうわんさてうりくとめされ
しがぞてのりんどさてるるとりぞてのこあん

ますとうろておち御のをはいまうめんさとさき
さりしやうじとざうりしあけすかくと
酒番あいさくずすきの御酒とさされた何ゐんへい
ゐんへいらめに御盃とさされたおかし是とさう
うけるがよし▲ちさういそいで飯をもやき▲さて佳肴のさたを
まづそめがさんとりげてさそやすめいですこしよ
かるしむとげされた是はましうけいづかる
きうひうりまるかしせまうせ▲えまいそれかし
こを何さきうすや盃むうしくもえ上の酒時てし
おこうりとめされしがおしもんのかうもと

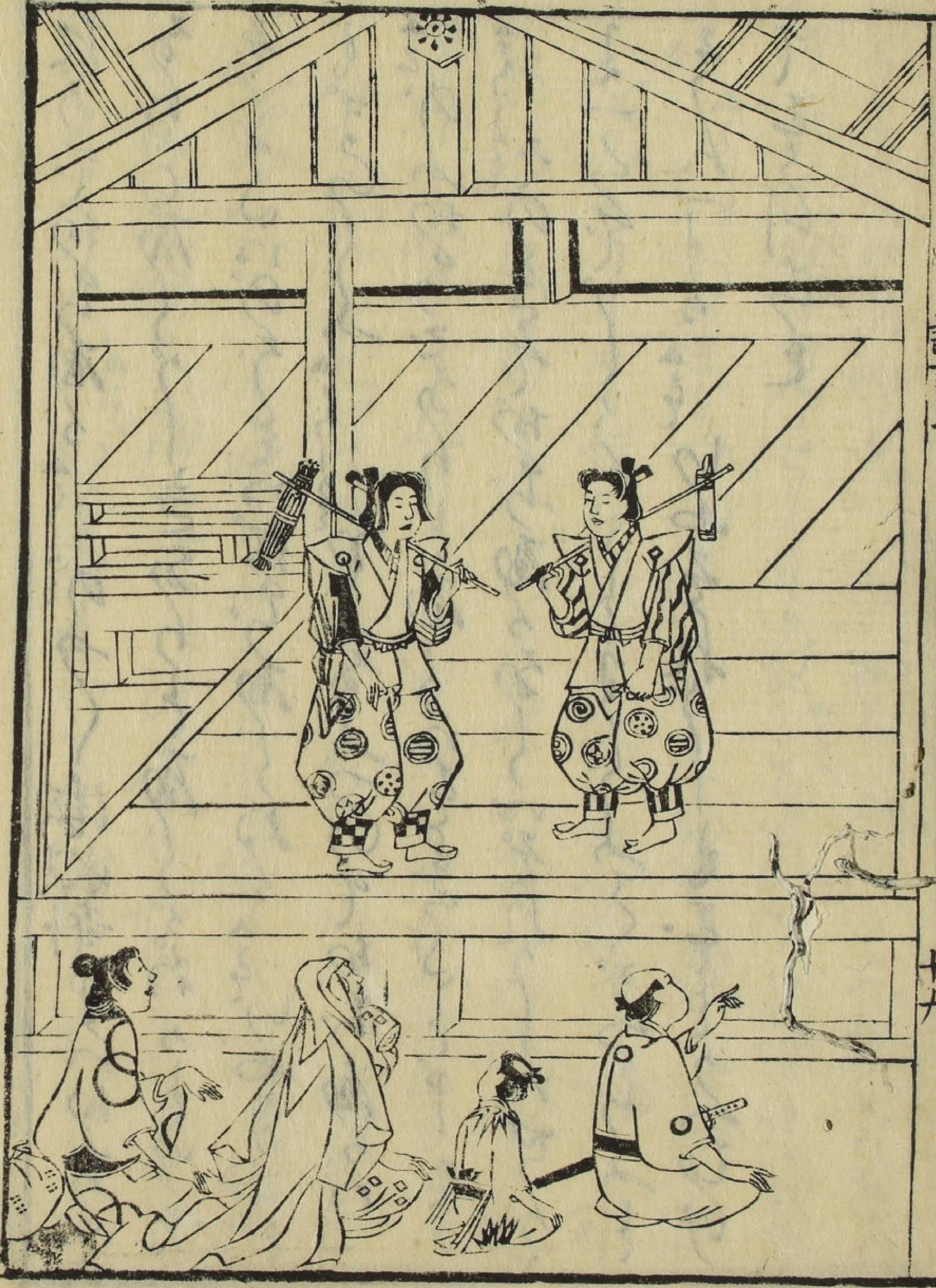
さみどりがしえんはげしう御を何まうめん
かしうこと志やりじどかうをとおけるがく
とれりんをがしうと御酒とおさされてうをべ
こりうべうちつめに御さうかしてて御盃を一首下
されうは是へまいてぶうのせすの謡がしかしし麺
くしきうてたらぞうしうりませんとわされさ
さもまずましうるけのまではおるまひ初めし
うり子まがしせすの謡▲そいやだ座是一もとうり
わがのげのづで物ちやるざりおのしぞらしてえ
まをがしく元上もくしゐうかのしそたいま

くゝわあいかきさのひよがきのしみをて▲（えうらく）お職よ
おしゆるぞとりがごのりのまりのかくしなくことものへの
どざつまけりうしせまり揃どさきへむけりさくぞ条り
ふだ▲（さて）まりきさくりまゆりせまり揃▲（えうき）やおぞそれ
くりかしきて海かぞとりへおまうしふさて▲（さて）まりさう
しまりせ▲（えうき）おてうへさくおちぢやかなりしゆきさん
▲（えい）すすらん▲（えうき）のうくあ書どかんさ其せまり揃
いくひかとかんをそでおちぢやもぬくおわき八みかかく
りとそでおゐる庵の揃にの▲（さて）のふそてえまはんさ
八すまざきゝしそておゐまゆる▲（えうき）おちやうしまりせ
はかんきをとみさうしまりせ▲（えい）えそ為いつけ袖▲（えうらう）
あ書どみさうしまり揃がしのしらかおぢ庵のま
いの▲（さて）ゑゐく袖いぞいぎうでおぢ庵る▲（えうらう）
のふくは庵がとみさうしまり揃がされいりひ大分で（けり）
おぢゆる乃のふみかうしうけでおぢ庵る▲（さて）おき
とさくりとぞきりて郎筒（すて）よえてしたぞかうおなら
やる▲（えうらく）えぞよりけりくにおしやらひぞく▲（さて）いや
ありかるすかけるかりにおしめるぞやらでずうつるか
かりいとおりかるすちやこよりてや床のそでおち
庵る▲（えうらく）のやうりかりときつておぢ庵る▲（さて）あく

わざこそでおぢやる ▲して おちやんおいへいつてもおぢ
御かほの桃とかんさうするせ ▲して それはありそておぢ
やる ▲くわじや おせがみかくして御ちやる ▲して のぞ
まんとみまうするせでりくでおぢやる ▲くわじや の御
どのふ文条もわし人つゝそ、おぢやる時の物とて
御さうしやうしかりとさがりひるすおちやる ▲して
のぞきんだおそせくて下てがるは ▲くわじや おせ
ごひみさうしするせおせ子どもがおしかるは ▲して われ
御として御そでおちやる ▲くわじや のふくかもりこ かく
げてまくらは ▲して いやおせはぞてそなとめしまゝ へが
たのうでおぢやる ▲くわじや のふく清水寺へおかちで
あると御ざりきあると御ざるがおかとうが
それほどのそはおぢやるか ▲して いや男ぞを
もあずらしふ ▲くわじや かどそのつゝそておぢやるは
▲して のふおちでありと御ざるはそれそれござることや
▲くわじや そのさきそでおぢやるがござりばそれはしはせんく
まくそでがしく／＼とまくめてくがくらふと
そんずる ▲して いやそれかしもまそさうんむけ
てもそりさを

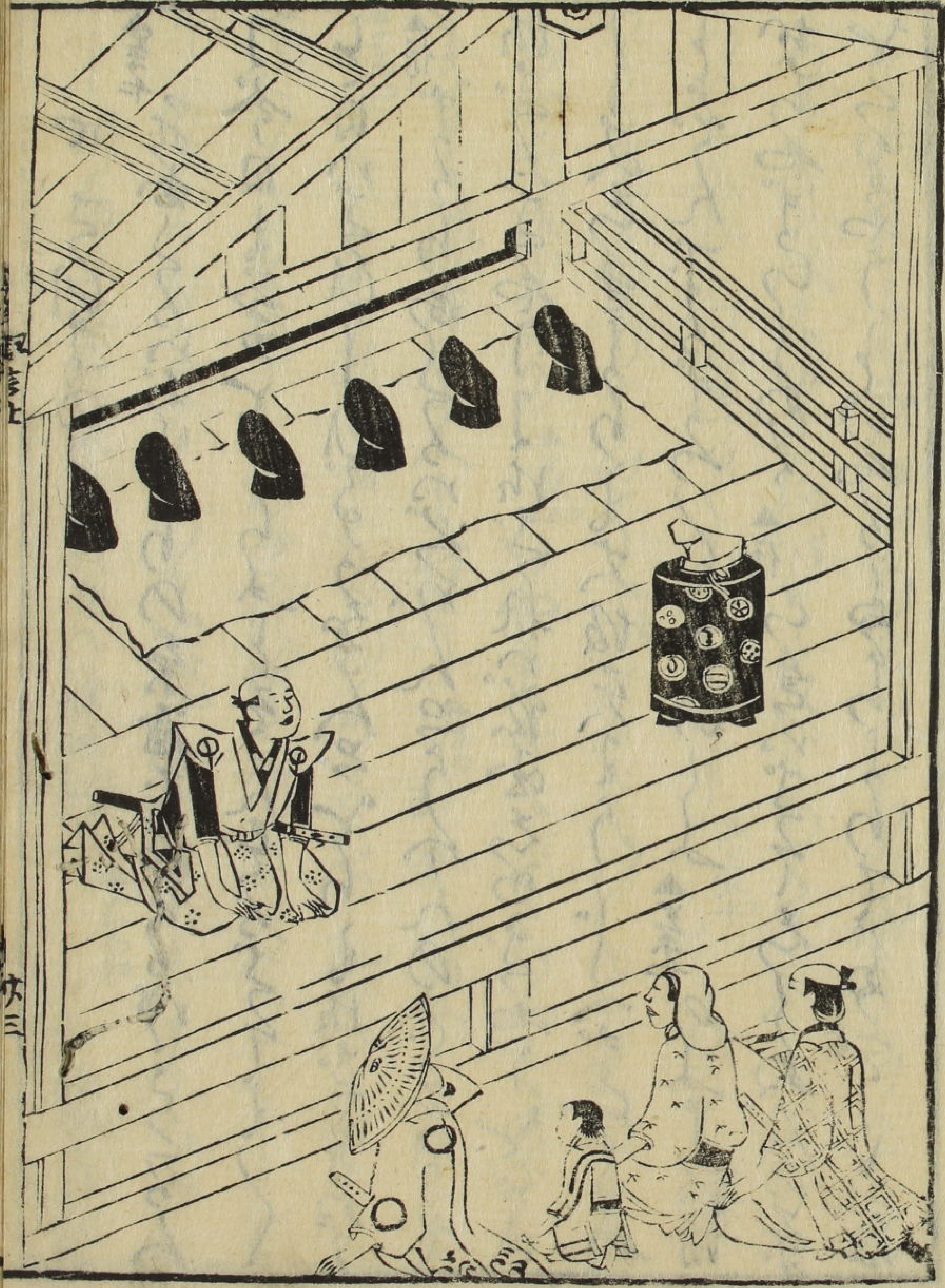
三　さゝきれち

さゝきハ源氏の御大将よし家来佐頼綱ハ石橋山乃合
戦よりけまけさせしを一ばんハ佐々木しさわうき
ともに船りよめされ土肥の次郎さねひらとめしいう
まさの紀しや味方のせいハばかりでわかそと佐それ
いぞの時三兄弟さんひらって七騎と申しつゞきし時より
そも父よりくもの奥州へおちうきとけるまでも七ゝきのま
よんを兄をかたうりも七ゝき坂をんちのきうしき治
かりされ二人船よりもおりておろしひへさてひ
らくおうせけれバその時さらの　つゞくしてまりて



はうそて清若とぎんとあちら舟のけんぼいしぞんまうさせ
は一番に田代（たしろ）屋二番にまはちろんがしの下部一二番に
去屋の三郎四ろうに去佐塚又番に墨湊藤八親
子なりのるのまいばみが君にいのちをまろうしぞんと
かりよかりのせいるまいぱうれが二人船よりかれし
やさんとおんしやさてしふこてつりまごうのがる
清らんしてがうにさる○ゑしうそこそかるおん
がぞでいそげくとおまいぱうの時さる○ゑしうり
てまいてひとそいづれ墨湊屋によ舟よりかりのは
へとりけまいぱそ清墨湊それかし年寄（としより）て君の清国
まさらせうし気るのとかりしめしぶやうにさは
それがしは船よりさいてずいぶんかりまうし
さぶらはぎんさらいのちこうばもちらへとそ
ふゑまいかやしは命を年とるのとおさいは又そ
時さる○ゑしう世の中にはいのちこうばもちらへのは
をのがず時かりのぎうれさんはすちゃうしらくいばへ
そもぶさの今まで此それがしもいのち二つはもちてはり一
けは我よがうしりせてば親子（おやこ）は一生（しやう）二つのいのちらそ
はやくはかぐ○ゑしうしわまいばそ附さるわやまいては
墨湊屋とそく我が子の若年にもかのいるれ三十年

げんぢ殿ばらかりへと申上けれは御ぞうと見つきて
それがし幼少（ようせう）より君の御用をうけたまはりし身の上と存
しかしごやうりはそれがしは殿よりは物わりいま
いと申けれは其時さるの年君の御祖父が命（いのち）をそ
むく物なしいかんでかいがけましきとてもしの日
ままとうけさせてまさしちらんとせし其日が前
あらし右佐殿中へとんでへおきいうかやとぞてきゆよ
そすりそてすらかぬまへとかけまいへそ時さい年ま
まゐせんぐそれかし殿らかりまかさんとまで
ま切りんとせし其時まの年月んくだくでのからさ
せがれかはいぞそれがしが〇よりもかりやさんとかけ
其は其年さいてはまて我が子の其年かりがへら
身よりもいそいでかりゆへいのちをすてうち君
まかぶりあかめて思へそれがし君と佐代まかし
申そでちぢやうありし殿はおかさへとてさあんざて
いそ文年家をうりて名をなし和田の小太郎義盛（よしもり）
は源氏まかとらせるさつひかれはけさびょうりと
もとがんつぎやさんそくごりとその后殿より追（おつ）
りんとせしとそるうま其年はなくれいまそいさ
申しがやうて其年ぞりけぞうそうにまのそかし殿



鶴のは毎にかけつゝ君のはゝにいらじらうどもはら
むしてせいはすしくり同かくれられとぞの
めでたし千年はしろこびの初うし鶴そこりまうくし亀
ゐろだ萬年とぞうけたまはりしぢ千年居にかはりびてそれは亀
さんとおもせは君はらんしていはひさるゝ○千ぢのよとも
てぶさきわりしかれはこさしこのおよりそうあり
うしてかすいまくびをくはまへとぞせんじとゐうち
◆藥中（さとひ）一てう此たいのいさかひころり東南西北のてきと
二 やかいぷらしけみかくはらんろされけん

四　さいはいのうち

▲茶や　みなさまハおゝかたの茶屋でばかりゆくさるん

こ今日も茶ハどうらふとぞんざうでもなく

と日ハさびしひるすうかんどとりもばざらね

▲僧　すゝりあつらハぐらりんとうへんのぐぞうで

ばざらざやうまばざれハ談あもめざやうといふと

しまもまうりも大坂天わうじへおらしふ

とぞんずるばかりまゐらしふ　▲茶や　のふや御坊

おちやずらしめく　▲僧　もまいハさてまん人の茶

やらまやうといふめぐらりてぐべうしとぽ

そらさてもみちやおかけハおめのかうつうござひ

ふうさん人へとばざなパがれどわくて今ハおちる

のめともかしやぱ一つてへませう　▲茶や　しもあみんなか

まそしぽうりませう　▲僧　さてもくさまハぐひ

ちやでばざるの　▲茶や　いやあどてがでちやでばざら

ますまう　▲僧　も一つくへませう　▲僧　あまりわつうばさる

▲茶や　うしこまりてばざるもめくぽんぜすませう

▲僧　わくさそのどくいきれパばざれちやうどく

うばざるもうすまう　▲茶や　ばざりまするう　▲僧　そ

しけあふてばざれさうまうか。▲茶や　アばゞうか

ことも千まいはかされますまいか ▲侍 されはこさります
おやりまおさもあそはされまして千まいはくさ
ね ▲茶や のみなはりやう茶代とまそれはいかてこ
▲侍 ふんぞの茶はいかほとかりますれか ▲茶や それ
さて茶やの茶はせんのはしめとして一ふくかおちや
おか一ふく一銭でおつまみかよいの ▲侍 それはちとゝへ
のむまいぬとはのふく茶屋銭はいらぬわけ
まぜぬかりけれはさかもそとおかねてまいろ ▲茶や まそ
わんかんてはなさぬか ▲侍 中〳〵おまやらぬ
▲茶や まそてよまのさいどもまへむけてはさろ ▲侍 いや

ろう天のまうじんまいりまする ▲茶や まつちりとゆう
しやられはかんざれのまさつしとて舩がはござらぬか
それはかんとわそだりしやらぞ ▲侍 いやそれはござ
川でまいろ ▲茶や ほとうろやまかハ川てはござらぬ ▲侍
やそ銭かしは舩賃（ちん）はいかほと折紙はのりかえてきれ
下向いさそ ▲茶 のよくはんまするまいはおまりうりかえし
ひ銭ではござらぬせんちんのちんせう ▲侍 ちまはさそ
茶の銭ちんせぬうへに舩ちんまてはもうしけのよ
こそはござれさうしてそこへ下されい ▲茶や のみは坊ハやそ
まづし舩ちんのちんせうとやすむはやちのる

ではさうしぬおのまくしまりいぞやうくずまさでは
ござりまくそごみうまでうてのせうかざうけうがとお
すみてぢんぜうしとりよるまではござら ▲僧 たれさうそ
うつけかよしてはざれしてそれいかにとやしき
せとりそ ▲茶や わたしへはざりいつつハずつりうけのく
いーやまた爰で時に船ちんといわよ時つま平家の
きんぬぎちぢつまのところでのまぢやとおい
ちやせい ▲僧 たまあてけましたさつのまよりこ
くでのまでくわくうつけかよしそればざれつうらあるら
まゐする ▲茶や 下向たしまいよういちやせい ▲僧 たま

されハこそよ茶屋のいふてくぢやとおもふてまし
つもりてあらうがいぬぞどこにいるぞ ▲せんどう まう
ゆまおくれバ出舟のまうしりてはさわる今日ハ
日がくしもまうはござりませぬでまださぞあそのりてもはさ
らふそろくまいろ ▲僧 いやわたしへまうしのりと
ゆんへてもらひまするびんせうさてありい ▲せんどう
あんちがやあい ▲僧 船よのらふやい ▲せんどう ちの京ハ大
事のまうしちがやふーいてひとりやつくりハの
せいつやい ▲僧 そうや 忍者いおまさおもひずいやい ▲せんどう いて
くらりでおつそ ▲僧 百人もおつま舟つまいの ▲せんどう

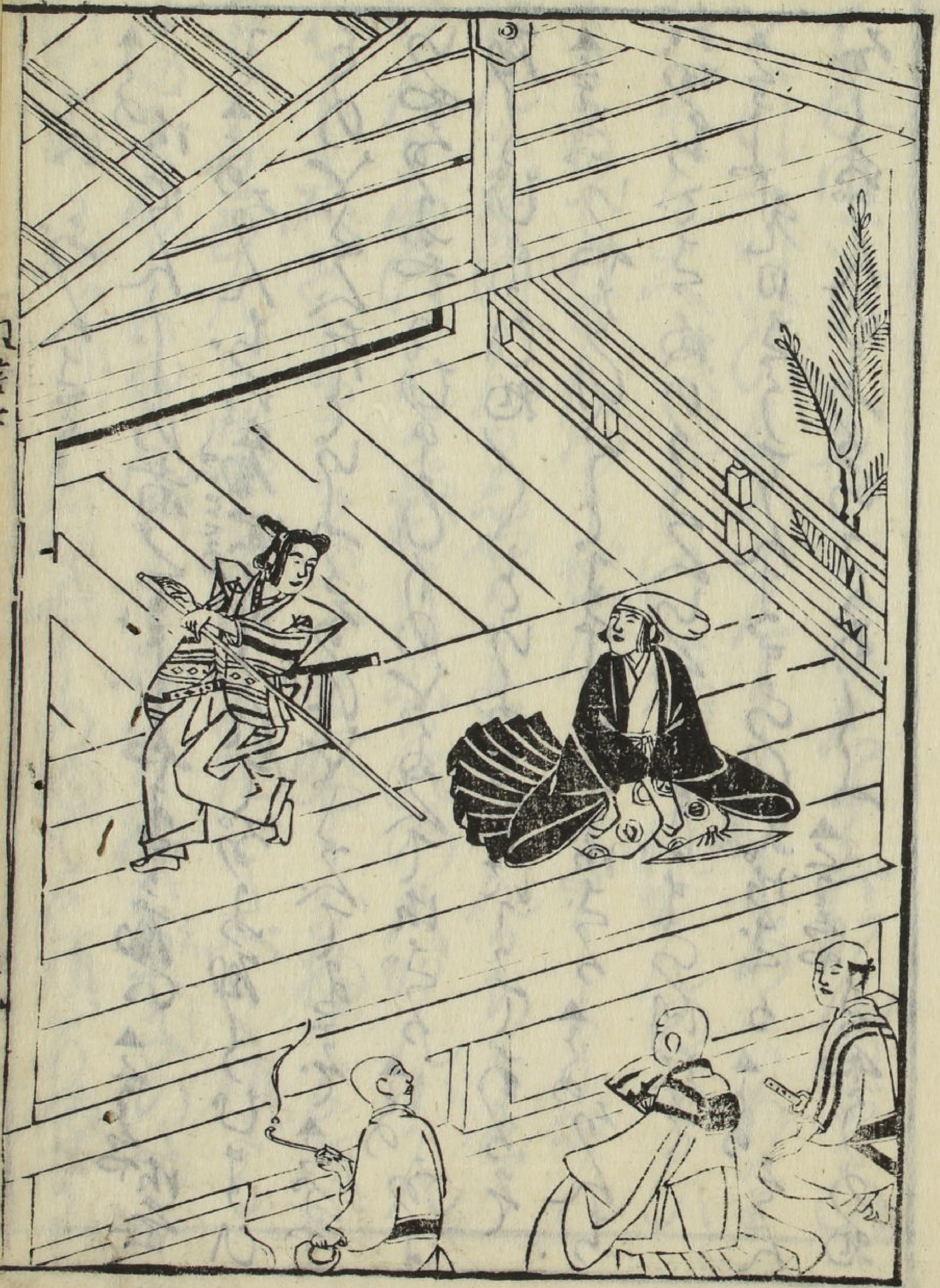
いやそんならしばらくのせうばかりしだいと百人の乗者
い▲侍いやみながらおしとゞくろぞそれがしはえまちや
まよりてさかへゆりのへなりしねまへしゝなりき
▲せんどうおりまをおしゆらぞびのひらやつくりとぞま
こ此方でおちなしぬいの▲侍船頭百人のせんち
んのまさきうかどにのせてたりき▲せんどういやそ
ひるしばまくしまぜうさわくぱのらりしやきい
のゆくごろさいばなのやうなかのりなりけてね
でおちなるゝ船かいくうぶわんないとなんへおまと
なりま▲侍のよ船頭ばふなりまへぞこりまおおやまん

どいなりく▲せんどうもわたりのが人のいましめしさばるするまい
わかゞわつくぱよりわさく御定なが其さく此侍はぱれ
くしぱどれへはさるぞ▲侍いや関東くしぱ天王寺へまいる
物でおりまするく▲せんどうかまらうばなうがちつゝら膳
まぱざうかとそくは侍はひとりいるすが深さうく▲侍なんでか沸
ぎるぞ▲せんどういや船賃のこしいはまのせう▲侍いやむそう
へづらそてうぷちんぜんせう▲せんどうのよはがつりけるとぎうへ
りつくのりみあげがわまくさがりよおちやけてくりさ
いぞれちやまよりて川中でそうりまいまそれてよおく
ちやらぬへいむりよおぱ侍へうちわげてかときまえまる

▲信 わごさまいるすとはしやばせんだらんのぞくらう
ばうぞ ▲せんそう うけたまはりませう ▲信 平家のきん
だち。▲せんそう いやはやちとくどいはなしとももうしやまし
いの ▲信 いやはやちうくではなこそ ▲せんそう いやかん〱
おしやはぞぞりせうしがちうくとどくしとるが
くらんそうまんではまえてはじ御かく ▲信 中さく
りんぎうれのはまうしのりぎうくずさしやと
いつしいのらんそうまちしぬりのはおしじや
らね ▲せんそう さそもくそれは海しでおちら
ゆらら。ちんぢりかまへてさそもくぞくどと

らうりぎそれぢやちうくでうけたまはりませ
うしてなにと ▲信 平家のきんだちさらつま
のくこはとしろがじや御か ▲せんそう わくだくし
ろふはならはしてわとこい ▲信 しからばおこそ
▲せんそう 中くびしてうけたまはりませうぞはかどろ
たとしろふはなかろの ▲信 かりしろいるすではござろ
▲せんそう それさてござるこのやうなかはうそもだん
ぜんのせうのはせまひろとかした又下御だい二
日も二日もとめましてぶかわそびとさつしませ
うぞ ▲信 しうじけなふそれござれ ▲せんそう 御こうし

らんどうりしやすいかげてふつ◎いづくにまいするら
こそ ▲信 ちてうちへてげざる ▲せんどう さわがりしりしやあい
おて今のわとくい ▲信 平家のきうんがてらざうひぎ
のくにさんつ御れ とく ▲せんどう うこてしわかま御らびや
そのわとしがごさうてうちかつも御ろ ▲姫 もうそく平家
御がおんと御らいでてつ ▲せんどう のよがんがそうく
まず茶やいぺまいおとずといの信しめさうつていやわとが
きてくてう信ぶる ▲信 わとらい平家のきうんおらぷころ
ぜのくにかしわか今うそひ付るく ▲せんどう 信し ▲信 抱と
▲せんどう おまもし ▲信 お姫のりのひさとぞ ▲彩 おんでもかいふずあいとらぶら寄せ



又 ぶんさう

▲その はそんどの着でましやるさうな ▲そうじや はなし

ま ▲そのおんちうは御所(ごしよさま)りにてござりまするむまうひ

とのもくんだといふがれてござりまする ▲さうや

いやおやすみやうもゆまもりのもあへてはござる ▲その おうま

御らむゆまひねくといふがあにゝつておかるぞ

▲そうおや いやもりくとおまへ出てはござる ▲そのおかんち

いおちてきた海のこゝろ時分ますもの川たそ

▲それや 元日さうてんますものでござる ▲その そん

おかしいがんのおかぞくおかく ▲さうおや さやうの物

でもござりませぬ ▲その名でばかんのんのぶるひ

と一川二川いひまくらぬよう雅りよおわいあるを

やがてころへ ▲そうじや それ ▲その それかんのぶるひ

まとうでござんがうぜんりまさうしようおん

かんの御川んの名やうまうかんのちくまう

かんの御川んの名(ちさ)月志ころの大かんかん

むしべくみやう ▲それや それやうな物でもござ

つとまぜあんざ何やしむまい物とべくはざる

▲そのさわれおんちがいたる物は菓子(くわし)ものさで

ひてわらふ ▲それや も川さやうの物でもござりませう

▲とのそれくらゐのぶるひよとりてハこうんがかう
じから花のぞんのかやうなうしがござる。
ざやくろくるところからくらうば梅はゆがいところが
しくらふうろ▲くわじややさやうのゆがい物ではござ
らせぬ何やらむしまいの物ぞべくござる
▲との梅はあんちうがべうてんじんぶんのぶんで
わらふぞ▲くわじやそれさやうの物でござらせう
▲とのてんじんのぶるひよとりてハそうめんのそ
ばきりうんどんのけいらんのくしめんのまんぢ
う。梅はきこの天満（まん）天神（じん）がこしらへてある

▲くわじやいやさやうのざしくさうハ物でもござりませ
ぬ▲とのさてハかんぢうがめべうでうべうかくゝ物の
あくひでおやる▲くわじやさやうの物でもござり
ませう▲とのそれしくこ物りござりてハ庭訓（ていきん）の式（しき）
状の古今（こきん）万葉（まんよう）伊勢物語論語（ろんご）朗詠（らうゑい）からうだらう十二
うんが源氏しくあめべくおやるか▲くわじやいやさやうの紙く
さい物でハござりませなんだ▲とのさてハかんぢうが
めべうがハ武具（ぶぐ）をのたしなひでおやるか▲くわじやさやう
の物さしもござりませう▲とのそれ武具（ぶぐ）の道具
とりハ太刀か刀か。鑓（やり）か。長刀か鉄炮（てつぱう）がござりまする

早稻田大學圖書

まうらが海の雁(かり)金下文字をたゞさびしきかたぐちはおもてら
かうおそて候らうおそてまですがうてがうらんべ
しらくふてまうさそてはおかのかりたらしげしくら
うそおりく▲くまゐやいやさやうがゞい物ではなごりま
せぬんだがくゐ座しうじまうひ物とくゐへてけざう
▲とのちさうやそらがんちが座うぶうろんが座い
はがみを物まうそへてはがやへねう▲くまゐやいまよがも
ひおくひてけざりまする廣梠の巴(でく)をやまごうし位へ
そうらようりしやますしてますりきやきます
古物のむろ円までくとおろしとぞんしまする

▲そのそれがしがきゝおよびしものは盛衰記(せいすいき)とおもひまく
よむ紙二三枚ほどもうぞくおゐてぶおしへおろし候が
でおくべきやうぎ▲くまゐもちり▲扨も石橋山の合戦
とうりたがころは治承(ちしやう)二年八月朔日のよるなりしが
佐殿頼朝(よりとも)は北條(ほうでう)ぞろが小濱とうりたちどもが御
せいは二三百よそうまはかりへござりしどきいのこくばかり
ようがいらきごなればとて飯部(よくくらう)とかまうこどら
あまりあちてりよ平家の侍まあるての三郎といふ
者がきいご三千よきのつわものどもとりくして石橋山
こたびいくはおそでこ六ろがんまぜんとそろ平家の

せいハ二千よきさ源氏の勢ハ三百よきさ三千よき
と三百よきさしおもしろく〳〵ぬとつもハ十分が一
おうきとはあし隙でも人の心ハ一つぞそろふておい
つまくりつぶのさとまづりつきどまりどこいきさ
しりもくいらんのおしきんくまくりどんぢさ
ぬ兩むしくしよてはつか▲二言ちやうやとうやうの御で
も波ぶりすみぬ▲との文剣ろのぞくさいぢすぐびろく
まもみへけきハ敵（ひき）軍よありあひてぐこしとてさ
だめ夕り源氏の方よハざるかぶの与一とりけてふ
まで与一がその日乃装束（しやうぞく）にハりよさそぐれて若やか

かるりがきこまハみかちろとりけてつるさうてせ
いくうの太口ぶうくちやうらぐんぺりに函を
りくろおう飛の乃ふしきのぴらうくきことてし
めそてまそハぎきてりそらむしてされきこそで
のしろひときおくのじけの文粮ならづとして代
くつのうりてそぞさてりそらぎ太刀ハ三尺三
すのびく抱つくりの太刀ときこさ二十四さい
うら犬中黒乃征矢（そや）ちくづくりまぢろうさいつ
けぞうげそうりのうれすみ中みぞてりぞるハ猶
ぬ（どう）まくくれもすきびくくしとうしか名る

に金うんのくしとうかせびとしうちのかね
もらひしに虎乃がいのかたいつけしがくまの
ばのおかりとうしひさしきせゆしるとしうち
のいらく太まやん三しらかせかうてつるかどうひ
うこぞ此山にすぐる根へとおし月かげにようちおへ
ぬしくりくしとそもろのいおもしこそ屋（ひら）のむねまで
よ偽あやざるかごとによ手一しし。一夜たまはりせん
としうろずなしくしてあから▲くさもやいやさ
やうの物ではござりませぬ▲とかくて平家に
ハ真田（さなだ）一にこうちんとて犬かりの者ご三人よりて

あまて一人いたずら舎貞（てい）又のし又郎京（ひひさ）へいろさに上へ
ハ長尾（ながお）の新又新六あり又のしぞ目の装束（しやうぞく）にぞかり
はまそつれてかけりうかうりずもかにハ白きかくまぜ
お白檀（びやくだん）みがきのかそのあそびおひとしのかるひ
とうきおかりけりのえまいらかでしまかうつけれて
そうこりそらながれのつてりのたちかやたさ三十
やさいうるか小高羽乃征矢（そ）からづたろまをつとつけ
ゆうりこあだりのかうのまん中おござりがらせもち
まうしげのかるに金霞輪（きんうくわん）のくしをとかせびきにせ
ゆしるとしうちのかくりしまかうでぞげ

わつせるのらんへまそむじんをとくてあるがあひ
へだてしどかつるがハかんさのおくにあれバたとへバ
梅屋のおしまいにむちろがまくにあいやどバゐき
ハおそろりとこうぶせうろりくこゝろくしをも
らろふ古ハたちうつ谷そこまでんのすとさるなか
がたまかつ又のぶドまかつさされたる高田ハ力すつさう
のおろしふやうひさくおさうへ矢頭ぶつりまつまじん
もとのりこしの力とあん捨てぐびうけざもがし
きバどれどもどしきバがしまさてまとどひく
もまてたつかうりあげこそおまへバげまむぞ

さやまさこのさうやつまりごうくさもけてさうやと
もはおり浪人者すこしバかまくらへさしぬくとき
がまらむしやれバおしさへおぢりのりさこそおかし
おそくニうちニうちがつとさらやりくとうち
けまハめけらせびしてぴし力運のつきさるぞのかり
や目くらまさおちまうかりきことされバうむらさい
まさうけおとりるがさるのごいらうんへまおくされてゐる
つまし前まて数尾新又新六おりわひとくみ重ハ武
者二さむじんをとうんでわらやおうんへおつまる
のちがわがまうのつぎのれくしとわらしこさ

ひよりひそかにやうすをうかゞへ・そぞのごとはそも
のしとやけきいがんからさかぐびらうた
まくすらちゆうしぶふかくまくこのとのいさそ
いろひよつきくらちにからかさつくしとう
ちゝくそくば三人めとびどさうひとみわたせ
みけこよりつてにそらしすまなくらつぷるぎ
とうてわせい老武者のむすこひとゆくしのまゝ
こさよ白ゑの七力うひらうでおだくかわしけのる
まのりむてさこのかくどちもしまとげかさこまとげば庵ん
ふざうのこ庵やすましまんやよ庵やすましまんをと

こゝろゑまするのはさつぱりとみそれぶんは徹（てつ）そ
とらぷいやくるしうもゆのはさゝる庵のめのとよ
名とぶんざうと善（こえふ）▲ぶきぢや わしそうぶんざうのかぞ
ゆざりまする▲との いやそのれがしといのもそへそぞおけ
てまく存（ぞんぢ）へたいぶんさうのかひでわしよ▲ぶきぢや 銘うん
さうのかひでゐざりました▲との それがし肉におしふぞう
やつめぶぶんさうぶんさうのまけぢやつもぢりそう
いでおるの主庵（あく）ぶかの○とがしせぶわせそうしきちるる
存（ぞんぢ）の義代まゆさのくせりのばかしびせりんへと堀みされた
ますせらりんのかみざるぞて言て（ぶ）ぶきりかわ▲こうや まい

六　ふすまい

▲大名　これハかくれもない大名太郎くわじやあるか

▲くわじや　御前に

▲大名　新ざんのものをかゝへうずとよび

いそいでのきてるハ今日ハ北野の御ゑん日ぢやさ

んいくうくうどやとうてまいれ　▲くわじや　かしこまつて御ざる

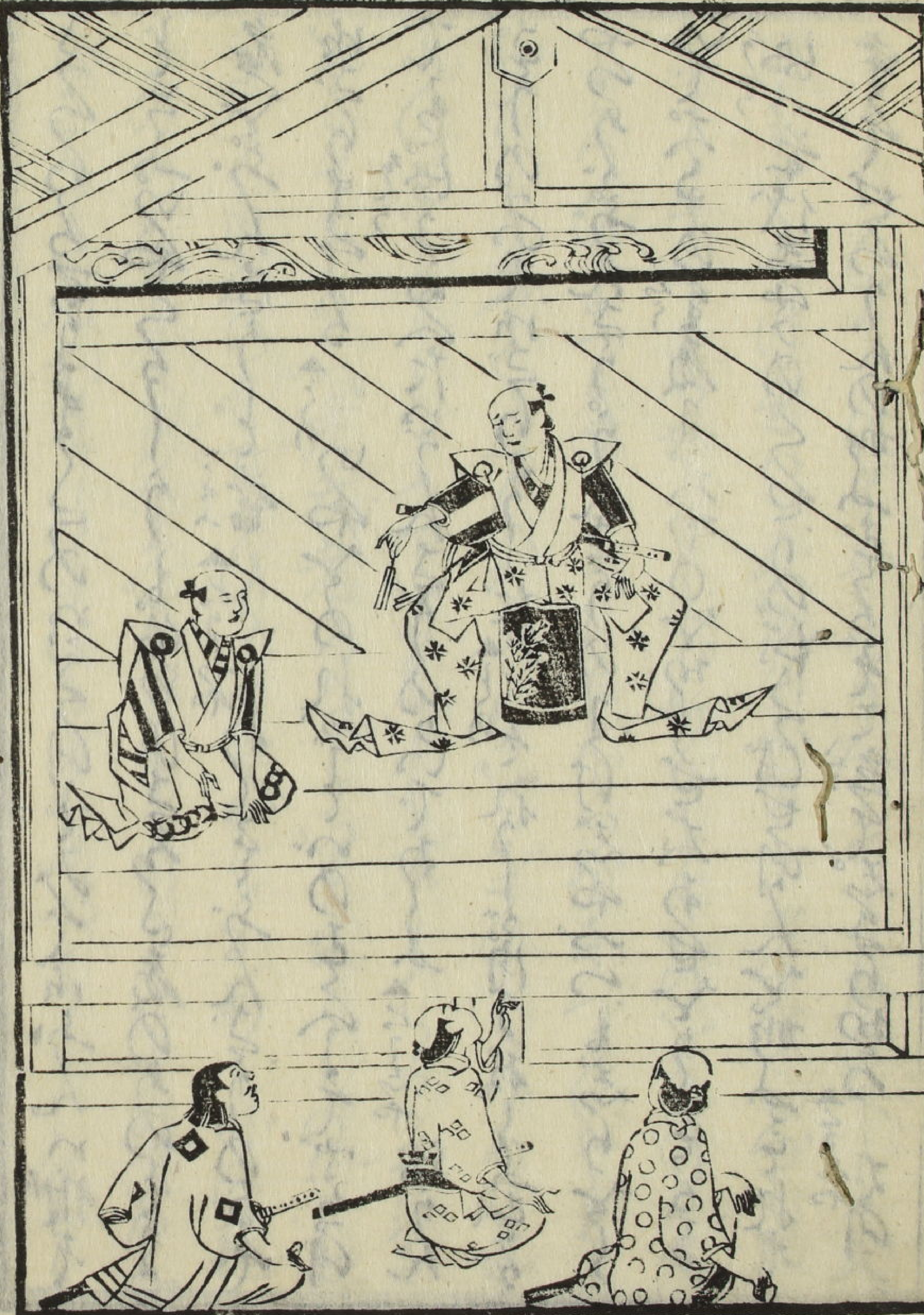
▲大名　こいく　▲男　これハこのあたりの者で御ざる

このすぶんをむかひまゐらしかとぞんずる　▲くわじや

やいそこなやお主何とて御ざりまする太刀をさげて

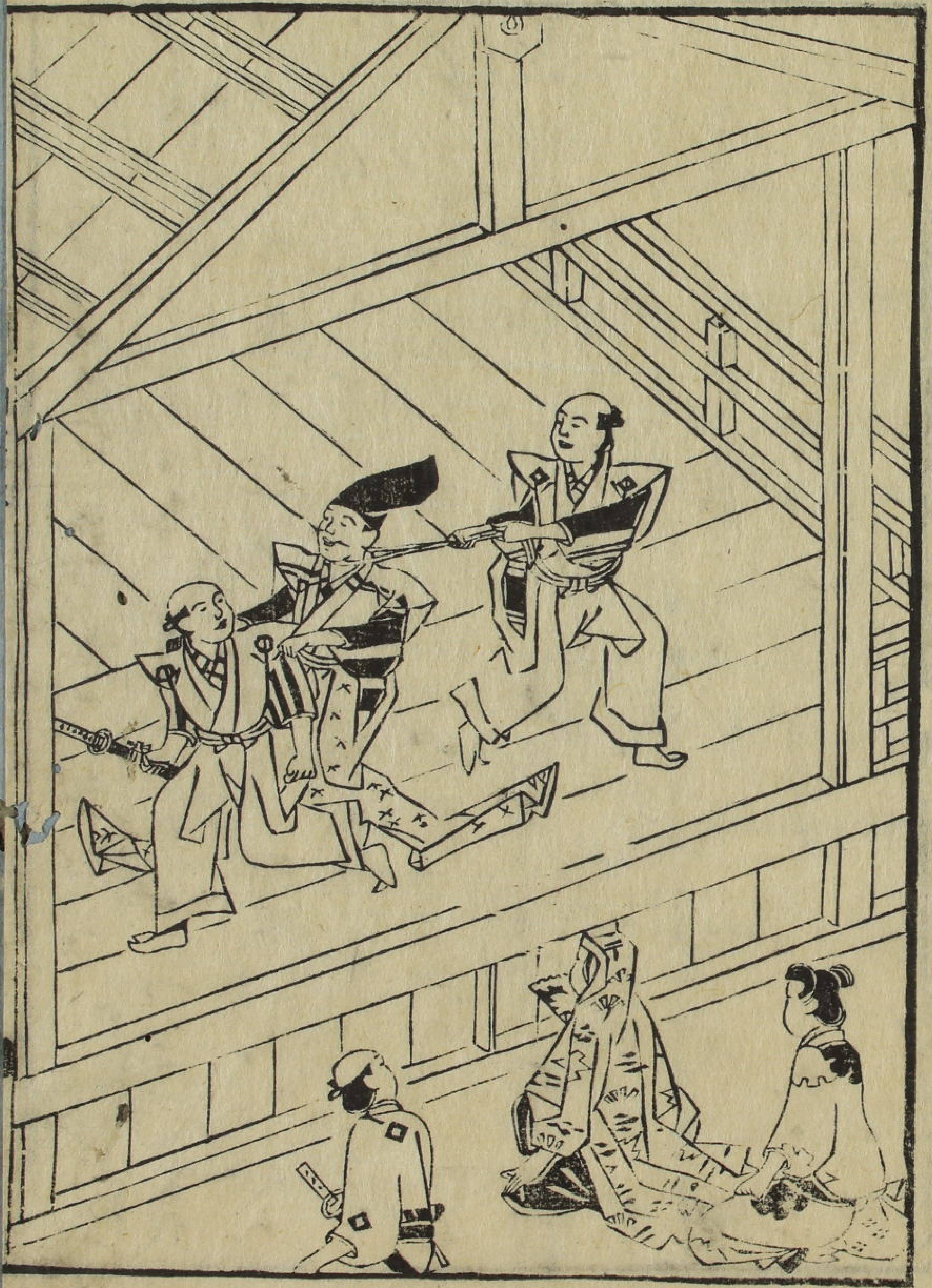
そとうぶんぢうをもつせてそまうまいか

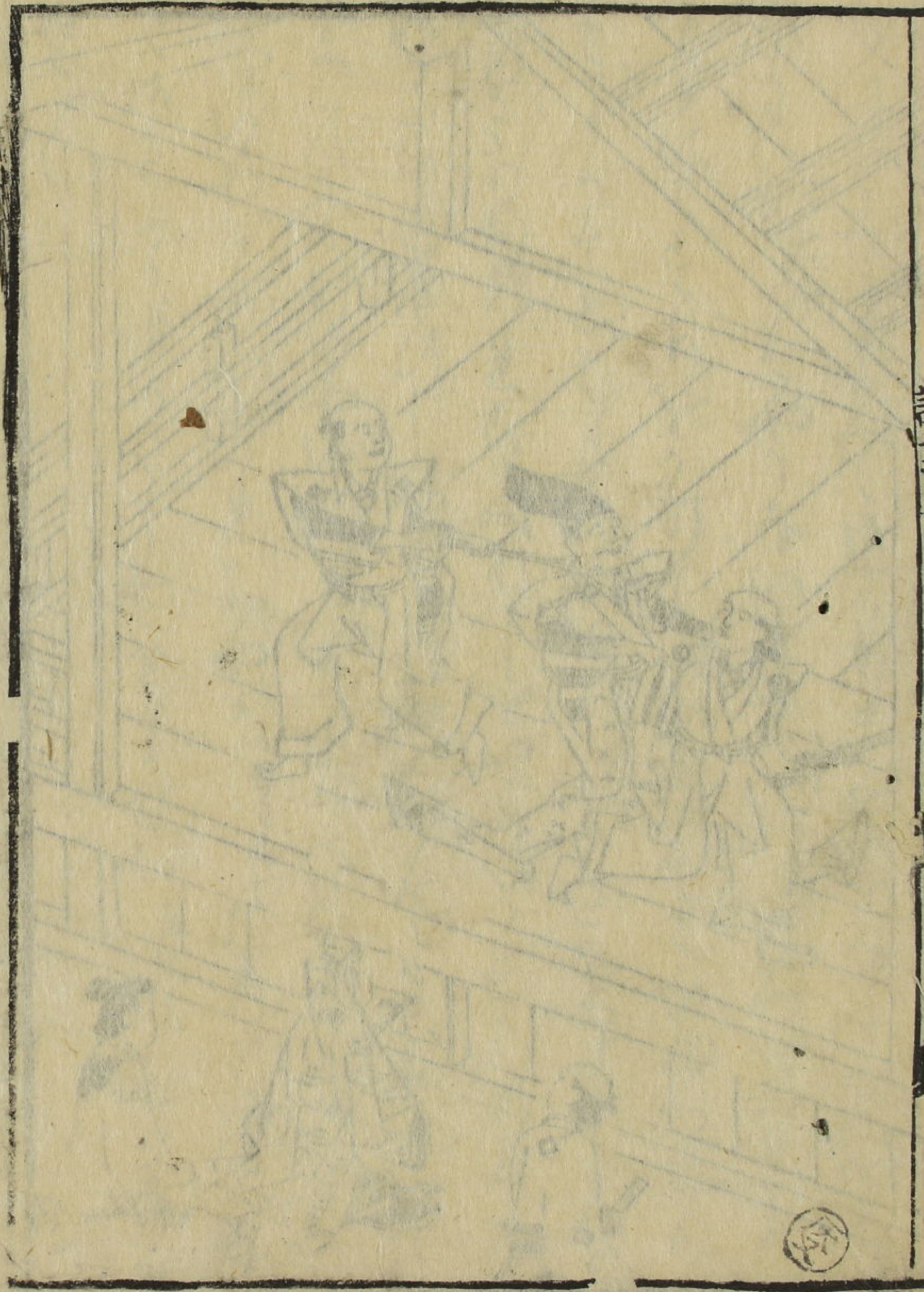
まつしかとのやと　▲くわじや　しものさ御ざるかりかさび



ておる太刀を御どしてどれてまゐりませう ▲大名 おく
いくどりてこい ▲くま志や おまへのそのうつかどおこ
さいしやきませい ▲大名 こりやくいそいでとりてく
こい ▲くま志やが こまりてはござらぬさのぢこてまい
そ ▲男 ちとみへまするものきそのぬきをうたして
みやどのへしおりまするか ▲くま志や わし心せませ
うく ▲男 さやはおさめておこしおろ ▲くま志や おく
▲男 いやそのはらかしつの方とさしたぜ ▲くま志や いや
みしおくさやいの ▲男 ちぢやうおこしおりまするひろ
▲くま志や わし心ぜませう ▲男 それならりやよい仕合（しあはせ）

ではござり ▲くま志や このさ御くぞりましく
▲大名 そりや ▲くま志や りうかどおちくへどりまし
▲大名 御いそれは重代ぢやが どれといくらどりや
そこいく、 ▲くま志や おりやくおのれではござら
▲大名 ぐまれくさわざしまんたい ▲男 こりや
みんときそう ▲大名 おんとするそうすかわりりのう
御いくつまきやぞの太刀もくろかもとき
▲くま志や むわどりました ▲大名 そのみのよ紙こうしら
へ忘 ▲くま志や りしてきりてはござるぞ太刀御いおわてま
せう ▲大名 御いみをきをおそしとしまい ▲くま志や たの



ぢりとぞしまうてはずりませぬめでたいそれ
ふうりゐの大名たちやうるいどもを▲くわじゃ すつかのきこの
るまひてさぞりとうけて▲大名 なにそこな御つかん
とすんぞきちうよいやい▲くわじゃ 様 すうこちやせよりませ
いのござわりのまちへわしどのまどきた大わきそれ
のきうぱけしやへ▲大名 なにいるんしくわかりやそ
まくびへうけいやい▲くわじゃ やうてろんへたけりやうけれ
▲大名 いやこりやとまちやる▲くわじゃ たわとのさね
ではさらうぱゆうさしやませせい▲大名 なにつまい
扨〱